

第一回 參議院郵政・厚生連合委員会會議錄第一号

昭和二十四年十一月九日(水曜日)午後二時十一分開会

委員丘名  
郵政委員

理蕃	中村	正雄君	理蕃邊渡甚吉君
大屋	晋三君	稻垣平太郎君	
奥主	一郎君	佐伯卯四郎君	
松平	恒雄君		
厚生委員			
委員長	冢本		
	重蔵君		

○委員長(山田佐一君) それでは会議  
「山田佐一君委員長となる」  
る法律案(内閣提出、衆議院送付)  
○お年玉つき郵便葉書等の発売に関する  
本日の会議に付した事件

お年玉つき郵便葉書等の発売に関する法律案の大臣の御説明を求めます。○國務大臣（小澤佐重喜君）只今議題と相成りましたお年玉つき郵便葉書等の発売に関する法律案につきましてその提案理由を説明申上げます。

年頭の挨拶を郵便によつて行う我が國民の美しい風習は、明治初年我が国の新式郵便の創設後、施設の普及と利

用の一般化につれて自然に発生したものでありまして、この年賀郵便の数は明治三十八年には約一億一千万通となり、その後漸次増加しまして、昭和十二年には約八億五千万通に達し、その重要な財源をなしていいたのであります。ところがその後、日華事変の勃発等によつて国民生活の変動に伴いまして、年賀郵便の物数は毎年激減の一途を辿り、昭和十六年からは年賀特別郵便の取扱が停止されるに至つたのであります、終戦後国民生活も漸次明るさを取り戻し、年賀状の差出しも増加する気配になりましたので、昨年末から年賀特別郵便の取扱を再開いたしたのであります。ところがその利用数は約七千万通に過ぎませんので、又その收入額は郵便の総収入額の僅かに二%を占めるに過ぎなかつたのであります。

先ずお年玉の額につきましては、お年玉の性質に鑑みまして、極めて軽微なものとする趣旨に基きまして、その単価は最高二万円を超えてはならず、又その金額及び価格の総額は、お年玉つき郵便葉書の発行総額の百分の五を超えてはならないことといたしたのであります。

きましては、お年玉は宝くじなどの当籤品に比べて極めて微少なものであつて、且つ全国的に広汎多数の金品授受取扱を行うことを考慮いたしまして、六ヶ月の短期時効といたしたのであります。

占を辿り、昭和十六年からは年賀特別郵便の取扱が停止されるに至つたのであります。ですが、終戦後国民生活も漸次明るさを取り戻し、年賀状の差出しも増加する気配になりましたので、昨年末から年賀特別郵便の取扱を再開いたしましたのであります。ところがその利用数は約七千万通に過ぎませんので、又その收入額は郵便の総収入額の僅かに二%を占めるに過ぎなかつたのであります。

るようになりますため、必要な事項を規定したのであります。即ち寄附金を受けたる団体は、その選定を公平にいたしますために、郵政大臣はその選定に当りましては、必ず郵政審議会に諮つて指定することと、寄附金の交付を受ける団体は、寄附金附の郵便切手又は郵便葉書の発行及び売捌のため、郵政省において特に要した経費を郵政省に納付しなければならないこと等を規定したのであります。何とぞ十分御審議の上速かに可決せられんことをお願いする次第であります。

○塚本量藏君 郵政委員会がこの法案を審議するに当りまして、厚生委員会との連合委員会を持たれることになりましたことに対しまして感謝いたしました。厚生委員会におきましても、この法案の審議にあたりましては、是非連合でやつて頂きたいことを前々から希望いたしておつたわけあります。その理由はこの非常に有意義な企てであります。が、私共のお願いいたしました根本のところを簡単に申上げますと、第五條の第二項であります。が、社会福祉の増進を目的とする事業団体を指定せられます場合に、郵政大臣が郵政審議会に諮つて指定するとありますのにつき、どういうふうにお運びになるのであるか、もう少し詳しく御説明が願いたいと思いますが、ただ法文上からこれを見ましたときには、沢山あります。が、社会事業団体のどれを指定するかということは言うまでもないのであります。が、願わくばこの場合に郵政大臣は厚生大臣と御協議の上でこの審議会に諮るなり、その他の処置によりまして、適当なる受益団体といいますか、団体を御指定になるようにして頂きたいと。いうことが、今大臣の説明の中にありました。が、ゆゑに公平を期するという意味からでも、当然そうすべきではないかと、こういうふうに考えましたことが連合審査を希望いたしました理由の

○國務大臣(小澤佐重喜君) お話を趣旨は十分了承いたしまして、この法律がこのまま御審議を終了されましたが場合でも、むしろこの慈善団体といふものはお話をのように厚生大臣の専管でございまして、私の方でふだん監督するわけでもございませんし、内容を調査しておるわけでもございませんから、当然郵政大臣は審議会にかける前に厚生大臣と協議して、そうしてその大体の原案を作つて審議会で御審議を願い、これを指定するつもりでおるのであります。従いまして若しこの法文的に考えて見まするならば、第五條の二項を「前項の団体は郵政大臣が厚生大臣と協議の上郵政審議会に諮つて指定する」とこう規定されたと同じようになつたのでありますが、ただ法文には出しておりませんけれども、実際の仕事をするに当りましては、今お話をのように條文がそつとあつたと全く同じことで、厚生大臣の指示というものを最も強く用いまして、そうしてやりたいと考えております。

更にもう一つお尋ねいたします。この法律に対しまして施行規則ができるといったしまして、今問題となつております厚生大臣に協議の上ということだが、この法律に掲げられないとするならば、その方で操作ができる性質のものでしようか、どうでしようか、それをちよつと伺つて置きます。

〇姫井伊介君 今一つ指定団体の予想  
ので出したので、その点だけ、つまり  
福引でやるという点だけが一つの宝鑑  
みたいになりまするので、一応法案と  
して御審議願つておる次第であります  
す。

取扱においては厳重に監督いたしまして、そういう間違いがないようにいたしたいと考えております。公衆に渡りましてからは、それから後のこととは郵政省の方として確認できませんので、その葉書を持つて来られた人を正当の

団体のために郵便の施設を供用すると  
いう形のように見えるけれども、事実  
はそうではなくて、それらの共同基金  
のお金は全部郵政省の振替貯金に一遍  
振り込まれるのでございます。そういう  
ふうに法律でも決めてござります

たならば、この法案そのものが反對を期せられる、全くなる。何人からも疑惑が生じない、こういうふうに私は思うのであります。それで衆議院の方ではすでに確か決議になつて来たのであります。そういうふうになつております

でしようか、どうでしようか、それをちよつと伺つて置きます。  
それからもう一つは、この社会福祉の増進を目的とする團体であります  
が、それは大体どういう團体を御指定になる御予想か、それを承つて置きた  
いと思います。

○國務大臣(小澤佐重喜君) これは先  
だつて赤羽の共同募金がありましたあ  
の共同募金が主として考えられており  
まするが、併し最後的決定は只今申上  
げました通り、厚生大臣と協議してこ  
れをやることになつております。主と  
して共同募金が我々の狙いであります  
す。

権利者として支拂いをいたしたい、こういうふうに考えております。

が、そういうわけで、任意の一般公衆が例えば共同募金なら共同募金に寄付をなさるという行為、その行為が郵政省の振替貯金という手続を利用されるということによつて行われるという形になるわけでござります。そこで、これは何もそういう個人の寄付をしたいという有志の方に特別の便益を供するのではなくて、一般に広く誰でも利用

関係がありますから、参議院の方で法案の修正をいたしますということは果して今日どうか、それはやつてもよろしいのでありますけれども、成るべくこの法案を早く出すという意味からいたしましても、又問題を複雑にしない意味から言いましても、同じ効果なればそれは大臣の言明でもよろしいとは思いますが、あつさりと衆議院の側で

万枚であります。そのうち一億五千万枚が共同募金のついた、つまり二円プラス一円、三円で売る分でありますかねえら、丁度一億五千万円が共同募金になれるわけであります。尙この施行期日には、附則にもあります通り、この法律は公布の日から施行するということになりますから、国会で御決定願えますれば、翌日或いは翌々日あたりに公示をして直ちに施行する予定になつております。

○中平常太郎君 厚生の方面から御質問申上げるのではないが、大変これは美しいいいお考え方つきの法案であります。が、この中間の紛失防止という問題はどういうことになりますか。折角お年玉つきの葉書を出しましたところで、これが届くか届かないか、或いはそういうことのために何か防止手段を考えられておられますかどうか。中間の紛失問題はどうなるか、これは受取人の方に利益が行くのでありますか

○政府委員(浦島喜久衛君) からそ  
うは行かんが、その辺の防止は  
できますのですか。

○塚本重藏君 お持つて来られます場合に、私共とし  
ましては、只今御心配の点がないよう  
に、正当の受取人であるということを確  
認ができるように、米穀通帳を提出  
させまして、正当の受取人であること  
を確認いたしまして渡すと、こういう  
ことに考えております。

してよろしい、つまり振替貯金の施設を利用されるという形になるのですから、その点では憲法八十九條との問題はないであろうというふうに解釈をいたしておりますのでござります。

もそれを認めて呉れるならば、法案の改正をした方がよろしいと思うのですが、その点はどうですか。

○姫井伊介君 施行規則なんあります、期日でなくして……。

ら、中間の紛失という問題が考えられませんか。

までの間に十分に御検討になつた結果であるから心配のないことと思ひます

事業に対する処分のことがある以上  
は、本当はやはり第二項は、「前項の

○國務大臣(小澤重喜君) 大体この法案は極く簡単な事項でございますので、施行規則なしに、この法案だけでも行きたいと思うのであります。ただ要するには、この法案を提出するに至つたことは、一つの社交的行為みたいな問題がありまして、それを特別の法案が必要か要らぬかということについても相当政府でも議論したのであります。が、結局法案として特別に出した方が穩当であろうという結論になりました。

○政府委員(浦島喜久衛君) 私からお答えいたします。今度のお年玉は、薬書に予め番号を入れまして、そうして受取人にお年玉をやるということになつております。従いまして、その番号の付きました薬書を貰つた人が、番号の当つた人がお年玉を貰える、こういうことになります。従いまして、その薬書が途中で紛失或いは事故等が起るという御配慮は御尤もだと思うのであります。これが内部におきますが、

が、この行為の憲法第八十九條との関連はどういうふうに説明せられるのでしようか。

團体は、郵政大臣が、厚生大臣と協議の上、郵政審議会にはかつて指定する。」とこういうふうに初めから出して置いて貰いたかったと思うのであります。それはどうかと申しますと、この社会福祉の増進を目的とする事業にこれを振り向けるというのありますから、厚生大臣を抜きにしてやりになることは絶対にないが、それくらいに明かなものである以上、尙更ここは当然厚生大臣という文字があつ

うような建前でいろいろ準備を進めて参つたのであります、急に法案がなければ駄目だという法務府の意見でしたので俄かに作つたのでありますて、そういう点において誠に杜撰な点もあると思いますが、若しもこの法案を来年度も同じく施行するというような場合には、今度はお話をのように修正案を出して完全な法律にして施行いたしますから、本年度だけはどうぞ今申上げたような事情でありますので、法案が

修正されたと同じような方法でやりますから、そういうふうに御了承願えれば幸いだと存じます。

○姫井伊介君 第一の発行はこれは当然年中行事的に年末発行となるのじやないかと思いますが、第五條の方は、これは年何回くらいおやりになりますか。

○國務大臣(小澤佐重喜君) この問題

は其同募金を行う時期と丁度適合いたしましたからこういう構想をしたのであります。

○政府委員(浦島喜久衛君) あります。

○井上なつゑ君 第五條の六項七項の

便だけに考慮するという程度だと考

ております。

○中平常太郎君 本案は誠に私共は非

便だけに考慮するといふ程度だと考

ております。

○井上なつゑ君 第五條の六項七項の

費用はどのくらいかかるものでござ

りますか、一億五千枚から費用を引きま

すと、純益はどのくらいになるのでござ

りますか。

○政府委員(浦島喜久衛君) 第五條を

今年実施するにつきましては、共同募

金とタイアップするわけでござります

が、共同募金委員会の方から手数料と

して頂きます金は大体まだはつきり決

まっておりませんが、今委員会でいろ

いろ打合せておりますが、郵政省でこ

の扱いに実際要しました金を預きたい

と思いまして、大体募金額の一割ぐら

い預きたいと思つております。かよう

うということでしたが、現在の共同募金は赤十字社の募金と共にしてやつてあります。この場合中央共同募金委員会に寄附なさることと思いますが、それが赤十字社との募金関係は打ち切られるわけですか。それをはつきりして置きたいと思います。

○政府委員(浦島喜久衛君) ちょっとお参考までに、今までのことを申上げまして御質問にお答えしたいと思います。一昨年と昨年と二回に亘りまして寄附金切手を発行いたしました。昨年は共同募金がありましたので、共同募金と、赤十字と共にしました。ということはやはり一円だけ高くなるものでありますから、放つて置くとどうもそう危れないという場合が出て来るというと、折角の好意が、効果が減殺されやしないかとこう思われるのですから、どうかこれは積極的に厚生大臣になつたようなお考へで、厚生の気持を十分に持つて頂いてこの事業を推進して頂いて、十分な結果を得られるようなどころへ一つ御盡力をお願いしたいと思うのであります。

○塚本重蔵君 只今までの質疑応答に

が、現在の社会情勢から申しまして、民間の社会事業が非常に苦境に立つておるのであります。多分その点を御考

慮なすつて郵政大臣におきましてはこ

ういう提案をなさつたものと存じます

るが、実際共同募金にいたしまして

も、今年十一億とか言つております

が、本当に民間社会事業が、何千とあ

る社会事業の従事員といふものは三千

三百円ベースで仕事をいたしております。まだ六千三百円になつておりますが、それを取り得るという程厚生省の

事務費が出ていないことになつて

融面におきましては尙更うまく行つて

います。社会事業が将来の失業対策、

その他から民間社会事業が非常な重要性を持つておる場合、我々の考えから

言つたならば、本当は共同募金は二十億を超さなければいけない程必要がある

のでありますから、こういう場合に

郵政大臣におきまして、こういうよう

な法案をお出しになつたことは非常に

時宜に適したものと思いまして我々は

賛成しておるわけでござりますが、ど

うか成行に任せないで、一億五千枚と

いうことはやはり一円だけ高くなるも

のでありますから、放つて置くとどう

もそう危れないという場合が出て来る

というと、折角の好意が、効果が減殺

されやしないかとこう思われるのですから、どうかこれは積極的に厚

生大臣になつたようなお考へで、厚生

の大臣になつたようなお考へで、厚生

の気持を十分に持つて頂いてこの事

業を推進して頂いて、十分な結果を得

られるようなどころへ一つ御盡力をお

願いしたいと思うのであります。

○塚本重蔵君 只今までの質疑応答に

が、現在の社会情勢から申しまして、民間の社会事業が非常に苦境に立つておるのであります。多分その点を御考

慮なすつて郵政大臣におきましてはこ

ういう提案をなさつたものと存じます

るが、実際共同募金にいたしまして

も、今年十一億とか言つております

が、本当に民間社会事業が、何千とあ

る社会事業の従事員といふものは三千

三百円ベースで仕事をいたしております。まだ六千三百円になつておりますが、それを取り得るという程厚生省の

事務費が出ていないことになつて

融面におきましては尙更うまく行つて

申しまして、只今の御意見の通りであります。ただこれを急ぐという趣

旨でこのまで御審議願いたいという

のであります。年玉にこの法律を適用してこうした

同じ事業をやるという場合には、必ず

責任を以て只今の字句は修正案を政府

として出することを考慮しております。

○塚本重蔵君 只今大臣からの御言明

があつたわけでありますから、私共と

しては、実際はここに修正を加えたい

のであります。年末に差迫つて直ぐ

に実行に移らなければならんよな事を

しております。ただ委員長といつても

お年玉につきの方は一回で、二度の

お年玉につきの方は二回で、三度の

お年玉につきの方は三回で、四度の

お年玉につきの方は四回で、五度の

お年玉につきの方は五回で、六度の

お年玉につきの方は六回で、七度の

お年玉につきの方は七回で、八度の

お年玉につきの方は八回で、九度の

お年玉につきの方は九回で、十度の

お年玉につきの方は十回で、十一度の

お年玉につきの方は十回で、十二度の

お年玉につきの方は十回で、十三度の

お年玉につきの方は十回で、十四度の

お年玉につきの方は十回で、十五度の

お年玉につきの方は十回で、十六度の

お年玉につきの方は十回で、十七度の

お年玉につきの方は十回で、十八度の

お年玉につきの方は十回で、十九度の

御説明願いたいと思います。

○國務大臣(小澤佐重喜君) それは郵便手の方の問題であります。葉書の

方に関する問題は年賀郵便だけでござります。五條の加算した額の郵便切手、又は郵便葉書、これがお年玉であ

ります。今の共同募金に関するものあるかも知れんということは、この郵

便手の方だけを考えておるわけで、そのお年玉につきの方は一回で、二度の

お年玉でありますから、お年玉につきの方は年賀郵便だけでござります。特にお年玉につきの方は二回で、三度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は三回で、四度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は四回で、五度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は五回で、六度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は六回で、七度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は七回で、八度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は八回で、九度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は九回で、十度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は十回で、十一度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は十回で、十二度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は十回で、十三度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は十回で、十四度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は十回で、十五度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は十回で、十六度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は十回で、十七度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は十回で、十八度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は十回で、十九度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は十回で、二十度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は十回で、二十一度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は十回で、二十二度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は十回で、二十三度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は十回で、二十四度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は十回で、二十五度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は十回で、二十六度の

お年玉であります。特にお年玉につきの方は十回で、二十七度の

。

何でもできるようなことに持つて行きたいと思つておりますが、今初めての試みといたしましては、これをお年玉だけをやつて見るというような気持でおるものですから、小林君の御趣旨は十分体しまして、今回実施した結果、好成績でございまれば、これは暑中見舞でもそれこそどんなものでも利用できるようにしたいと思つております。

○委員外議員(小林勝馬君) 参考までに一、二点お伺いして置きますが、第一條の第二項に、二万円をこえてはならないとあります。が、只今賞品その他は十万円とか百万円くじとか、相当高額のものになつておりますのに、ここに二万円に限定された理由を御説明願いたいのと、次に第四條におきまして、「第二條第五号の支拂又は交付の期日から六箇月間行わないときは、時効によつて消滅する。」といふ、この六箇月間という期日は何を根拠に御決定になつたのか、お伺いしたい。

○国務大臣(小澤佐重喜君) この二万円という数字は大体に根本の思想は、先程もお話しました通り、徒らに射撃心を起すというようなことは原則として禁止されるべきものである。賭博に類するような行為を出すということは、原則として日本の法律は禁止しております。従つてこの郵便葉書三円だけの元金でどの程度の景品をつけることが適當であるかといふ問題を考えますと、よその宝くじのような大きな射撃心を喚るまでの必要はないというような見地から、できるだけ少額のもの、殊にお年玉という言葉を使いますことは、原則として、子供に対するプレゼントというようなこと

午後二時四十七分散会  
出席者は左の通り。

## 郵政委員

## 委員長

## 委員

## 理事

## 委員

## 厚生委員

## 委員長

## 理事

## 委員

## 理事

## 委員

山田 佐一君  
渡邊 勝吉君  
中村 正雄君  
大屋 晋三君  
塚本 重藏君  
谷口 翔三郎君  
岡元 義人君  
藤森 真治君  
井上なつゑ君

渡邊 勝吉君  
中村 正雄君  
大屋 晋三君  
塚本 重藏君  
谷口 翔三郎君  
岡元 義人君  
藤森 真治君  
井上なつゑ君

中平 常太郎君  
姫井 伊介君  
草葉 隆圓君

中平 常太郎君  
姫井 伊介君  
草葉 隆圓君

谷口 翔三郎君  
岡元 義人君  
藤森 真治君

中平 常太郎君  
姫井 伊介君  
草葉 隆圓君

が念慮に入つておるのであります。そういう意味から一家の生活に見え舞でもそれこそどんなものでも利用できるようにしたいと思つております。それでは一万円と一万五千円も適当であり、又五千円といふような考へから極く少額に考えております。それでは一万円ということを考えることも適當であると言えますし、一万五千円も適當であります。そこで、それを一万円といふことを考へた、更に抽籤に当つた家の子供が喜ぶといふような景品を選ぼうといふよう考へました。

うような考へから極く少額に考えておりまし、ういう意味から一家の生活に見え舞でもそれこそどんなものでも利用できるようにしたいと思つております。それでは一万円といふことを考へた、更に抽籤に当つた家の子供が喜ぶといふような景品を選ぼうといふよう考へました。

ういう考へから極く少額に考えておりまし、ういう意味から一家の生活に見え舞でもそれこそどんなものでも利用できるようにしたいと思つております。それでは一万円といふことを考へた、更に抽籤に当つた家の子供が喜ぶといふような景品を選ぼうといふよう考へました。

ういう考へから極く少額に考えておりまし、ういう意味から一家の生活に見え舞でもそれこそどんなものでも利用できるようにしたいと思つております。それでは一万円といふことを考へた、更に抽籤に当つた家の子供が喜ぶといふような景品を選ぼうといふよう考へました。

ういう考へから極く少額に考えておりまし、ういう意味から一家の生活に見え舞でもそれこそどんなものでも利用できるようにしたいと思つております。それでは一万円といふことを考へた、更に抽籤に当つた家の子供が喜ぶといふような景品を選ぼうといふよう考へました。

ういう考へから極く少額に考えておりまし、ういう意味から一家の生活に見え舞でもそれこそどんなものでも利用できるようにしたいと思つております。それでは一万円といふことを考へた、更に抽籤に当つた家の子供が喜ぶといふような景品を選ぼうといふよう考へました。

ういう考へから極く少額に考えておりまし、ういう意味から一家の生活に見え舞でもそれこそどんなものでも利用できるようにしたいと思つております。それでは一万円といふことを考へた、更に抽籤に当つた家の子供が喜ぶといふような景品を選ぼうといふよう考へました。

ういう考へから極く少額に考えておりまし、ういう意味から一家の生活に見え舞でもそれこそどんなものでも利用できるようにしたいと思つております。それでは一万円といふことを考へた、更に抽籤に当つた家の子供が喜ぶといふような景品を選ぼうといふよう考へました。

ういう考へから極く少額に考えておりまし、ういう意味から一家の生活に見え舞でもそれこそどんなものでも利用できるようにしたいと思つております。それでは一万円といふことを考へた、更に抽籤に当つた家の子供が喜ぶといふような景品を選ぼうといふよう考へました。